

平成26年度学校評価報告書(自己評価)

本年度の重点目標
 ○〔重点目標1〕 確かな学力の向上の取組を行う。
 ○〔重点目標2〕 心の育ちの推進を図る。
 ○〔重点目標3〕 子どもの特性を伸ばし、意欲を高める教育の推進を図る。

	a:評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b:取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d:成果及び改善方策
重点目標1	・生徒は挨拶ができていますか。	・登下校の時間に於いて、管理職や専任生徒指導、副任、生徒会担当職員・生徒、保護者、部活動生徒が、校門であいさつ運動を行っている。また、生徒会が毎週水曜日にあいさつ運動を行っている。	A	・登校時のあいさつ運動の活性化により、校舎内でも挨拶をする生徒は増えてきている。生徒会による呼びかけ活動を、更に活発化させる。 ・PTAや地域の方も参加するあいさつ運動を、更に活性化する取組を行う。
	・本校の生徒指導の方針や方法は、生徒や保護者に理解されていると思いますか。	・学校全体や各学年の行事に於いて、生徒指導の共通理解を図り、指導を徹底している。 ・ホームページに学校の指導方針を掲載している ・学校だよりを月2回発行し、方針や取組を発信している。	B	・問題事象は校内外ともに減少傾向にあるが、早期対応・職員間の共通理解をより図る。また、器物破損などに対しては、すぐにアンケート調査などの対応を行う。 ・地域住民からの苦情は減少傾向にあり、学校への信頼が徐々にではあるが回復している。 ・学年間の情報交換を密にするなど、風通しを良くする。(職員会議での情報交換の定例化・生徒指導部会の活性化)
	・「いじめのないたのしい学校づくり」に努めていますか。	・カウンセリングマインドに基づき、学期ごとに教育相談活動を行い情報収集し、それに基づいた指導・取組を行っている。	B	・定期的な教育相談活動以外にも、生徒との信頼関係を構築できるように、日々働きかける。(チャンス相談など) ・担任以外の教職員全員も、カウンセリングマインドにもとづく相談体制をつくる。
重点目標2	・わかる授業、楽しい授業づくりに努めていますか。	・学習のめあてを明確にして、指導方法の工夫改善を実践している。CRTなどの検査を分析し、現状把握と課題を明確にして、改善を図る取組を行っている。	B	・学力の二極化が更に広がり、低学力の生徒に対する指導を工夫改善していく必要がある。(少人数指導の工夫や、小中連携推進教員の更なる活用を図る。) ・全国学力・学習状況調査ならびに、CRTテストの結果を分析し、今後の指導の資料として活用する。(基礎・基本、応用ともに全国よりも低い)
	・生徒は、授業に集中して意欲的に学習に取り組んでいますか。	・学習規律の徹底と、落ち着いた学習環境の中で授業を行うことが出来るように努めた。	C	・授業規律の乱れや、授業不定着の生徒が低学力につながる。あたりまえのことができるように指導することが必要である。 ・授業の心構えとして「授業五則」を全校で取り組む。 ・個別のつまづきを見つけ、個に合う指導を行うことも必要である。
	・計画的な家庭学習に取り組ませ、支援・指導を行っていますか。	・週末や長期休暇などは課題を出す。また定期考査に於いては学習計画表を作成するなど、計画的な学習習慣の定着ができるように指導した。	B	・家庭学習の時間についても二極化が広がり、学習時間の持てない生徒に対する指導が必要である。(来年度より、全生徒に対する家庭学習ノートの配布を行い、活用を図る。 ・休み時間や放課後の時間を利用して、質問するなど、意欲的に学習に取り組む生徒は増えてきた。

重点目標3	・生徒と先生の信頼関係は構築されていると思いますか。	・毎学期ごとに、教育相談週間を設定し、チェックリストを作成するなど、特別支援を要する生徒に対する共通理解を全職員で持つように努めた。	B	・特別な支援を要する生徒に対する情報交換を、学期ごとに行い、全職員で指導にあたる必要がある。 ・特別支援校内委員会を、更に充実したものにするための資料を工夫・改善する必要がある。
	・体育大会等学校行事は、生徒にとって充実していると思いますか。	・生徒会を中心として、企画・運営を行う。	A	・体育大会・文化学習発表会に対する、地域・保護者からの意見を参考に、今後の学校行事の中に活かしていく。 ・生徒には充実感や達成感はあるが、更なる向上を目指して集団づくり等取組を行う。
	・部活動は生徒にとって充実したものとなっていると思いますか。	・全教員が、全員顧問制のもと、各部に所属し、生徒たちへの指導に当たっている。(外部コーチの活用)	B	・部活動への生徒の参加率が80%を越えている。 ・文化系の部活動の活性化を図る。(情操教育の育成) ・部活動に対する保護者の思いを理解し、相互の協調体制をつくる。

※評価(例) A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

※各校の実情に合わせ、欄を大きくしたり、増やしたりすること。

※重点目標の欄については、必要に応じて欄を増やすこと。 ※報告書は2頁を超えてよい。

<留意事項>

記入にあたっては、下記の取組に関する評価項目・取組状況等(校内体制を含む)について必ず加えてください。

- ① 学力・体力向上プランの内容に沿った学力・体力向上の取組
- ② いじめ問題解決のための取組
- ③ 特別支援教育推進のための取組
- ④ あいさつの取組

自己評価を実施した結果等について、以下の項目を記入してください。

○ 保護者や地域に対し、自己評価の結果等をどのような形で情報提供・発信をしましたか。当てはまるものすべてに○印を付けてください。

① 学校ホームページ	○
② 学校便り(学校通信)	○
③ PTA広報誌等	
④ 自己評価結果報告書	
⑤ 直接説明する機会を設定	○
⑥ その他()	

※ 自己評価結果等の公表については、学校ホームページにおいても行ってください。学校が重点的に取り組んでいる内容や方策、評価結果の考察や改善策について情報提供・発信してください。

また、学校のよさや特色について、そして何より、幼児児童生徒や先生たちのがんばりを積極的に発信していただきますようお願い致します。そうすることで、保護者、地域住民等からの理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを推進していただきたいと考えます。